



平成22年5月12日

各 位

会 社 名 大和ハウス工業株式会社  
(コード番号1925 東証・大証第一部)  
代表者名 代表取締役社長 村上 健治  
問合せ先 経営管理本部IR室長 土田 耕一  
電話番号 (06) 6342 - 1400

### たな卸資産評価損および減損損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成22年3月期決算（平成21年4月1日～平成22年3月31日）において、たな卸資産評価損および固定資産の減損損失を計上することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. たな卸資産評価損

##### (1) 【連結】平成22年3月期末のたな卸資産評価損の総額

(A) 平成22年3月期第4四半期中のたな卸資産評価損の増加額（連結） (イ) - (ロ)	10,467 百万円
(イ) 第4四半期末のたな卸資産評価損の総額（連結）	16,194 百万円
(ロ) 第3四半期末のたな卸資産評価損の総額（連結）	5,727 百万円
(B) 平成21年3月期の連結純資産の額 (A/B×100)	607,427 百万円 ( 1.7%)
(C) 平成21年3月期の連結経常利益額 (A/C×100)	39,855 百万円 ( 26.3%)
(D) 最近5事業年度の平均連結当期純利益額 [平成17年3月期～平成21年3月期] (A/D×100)	29,817 百万円 ( 35.1%)

##### (2) 【個別】平成22年3月期末のたな卸資産評価損の総額

(A) 平成22年3月期第4四半期中のたな卸資産評価損の増加額（個別） (イ) - (ロ)	10,363 百万円
(イ) 第4四半期末のたな卸資産評価損の総額（個別）	16,078 百万円
(ロ) 第3四半期末のたな卸資産評価損の総額（個別）	5,715 百万円
(B) 平成21年3月期の純資産の額 (A/B×100)	542,193 百万円 ( 1.9%)
(C) 平成21年3月期の経常利益額 (A/C×100)	28,320 百万円 ( 36.6%)
(D) 最近5事業年度の平均当期純利益額 [平成17年3月期～平成21年3月期] (A/D×100)	24,221 百万円 ( 42.8%)

(注) 当社グループが保有するたな卸資産のうち、主に販売用不動産について「棚卸資産の評価に関する会計基準」に従い正味売却価額まで簿価を切り下げ、差額を売上原価に計上しました。

## 2. 減損損失

### (1) 【連結】平成22年3月期末の減損損失の総額

(A) 平成22年3月期第4四半期中の減損損失の増加額 (連結) (イ) - (ロ)	10,748 百万円
(イ) 第4四半期末の減損損失の総額 (連結)	10,904 百万円
(ロ) 第3四半期末の減損損失の総額 (連結)	156 百万円
(B) 平成21年3月期の連結純資産の額 (A/B×100)	607,427 百万円 ( 1.8%)
(C) 平成21年3月期の連結経常利益額 (A/C×100)	39,855 百万円 ( 27.0%)
(D) 最近5事業年度の平均連結当期純利益額 [平成17年3月期～平成21年3月期] (A/D×100)	29,817 百万円 ( 36.0%)

### (2) 【個別】平成22年3月期末の減損損失の総額

(A) 平成22年3月期第4四半期中の減損損失の増加額 (個別) (イ) - (ロ)	4,451 百万円
(イ) 第4四半期末の減損損失の総額 (個別)	4,451 百万円
(ロ) 第3四半期末の減損損失の総額 (個別)	—
(B) 平成21年3月期の純資産の額 (A/B×100)	542,193 百万円 ( 0.8%)
(C) 平成21年3月期の経常利益額 (A/C×100)	28,320 百万円 ( 15.7%)
(D) 最近5事業年度の平均当期純利益額 [平成17年3月期～平成21年3月期] (A/D×100)	24,221 百万円 ( 18.4%)

(注) 当社グループは、原則として、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分(支店、各拠点、各物件等)を単位としてグルーピングしています。上記の減損損失は、不動産価格の下落や競争の激化に伴う収益性の悪化により帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失に計上しました。

## 3. 業績に与える影響

上記のたな卸資産評価損及び固定資産の減損損失を計上した平成22年3月期通期決算の内容につきましては、本日(平成22年5月12日)発表しております「平成22年3月期 決算短信」をご覧ください。

以 上